

時空をこえてつながってきた人形劇のまち飯田

飯田と人形劇

飯田市は、諏訪湖から流れ出した天竜川が太平洋へ注ぐちょうど真ん中あたり、東に南アルプス、西に中央アルプスがそびえる、豊かな自然と四季の変化に富んだ南信州の中心都市です。東西、南北の交通の要衝として繁栄し、中馬※1による交易などが盛んで、経済的にも文化的にも豊かな土地でした。

人形浄瑠璃が飯田市に伝えられたのは今からおよそ300年前。当時、飯田のまちは豊かに潤っていたと言われています。山の人々は木を切り出し、農家は桑を育て、蚕を飼って絹糸をとり、にぎやかに暮らしていました。農閑期には、当時お流行の人形浄瑠璃の一座を呼んで大いに楽しんでいたそうです。そして、黒田※2や今田※3の人たちをはじめ、多くの人たちが旅の一座から人形遣いを教わり、やがて祭りと結びついて、地域の人々の手によって現代に伝えられてきたのです。

飯田にはたくさんの祭りがあります。自然への畏敬の念を抱いた人々の祭りには、おみこしや獅子舞、神楽など人形浄瑠璃以外にも様々な芸能が奉納されています。それらは神事であると同時に、人々の楽しみの場でもあり、また、地域の若者を鍛え育てる場であり、人々の団結を促すものでもあります。伊那谷には、数えきれないほどの獅子がいます。各地域が競い合い、様々な工夫や鍛錬を重ね、各地域に独自の獅子や舞が生まれてきたのです。

このように、飯田の人たちは昔から芸能を観ること、演じること、支えることを楽しんできました。守り伝えられてきた気質が、今なお現代の人々に受け継がれてきています。

※1 認可を受けた運送業者に対する民間の運送業者（江戸時代）。百姓馬などを使った。
※2 現在の飯田市上郷の一部
※3 現在の飯田市龍江の一部



東野大獅子



霜月まつり

